

平成30年度第1回広島市環境審議会 議事要旨

1 日時

平成30年11月28日（水）午前10時～正午

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

田中 純子（会長）、西嶋 渉（副会長）、粟屋 仁美、大浜 裕香、甲斐 智子、佐々木 緑、寒川 起佳、寺岡 菊恵、中山 幸子、長谷川 弘、濱田 良紀、林 武広、牧里 重喜、森川 宣彦、柳下 正治、若松 伸司（以上16名）

4 次第

(1) 開会

(2) 局長挨拶

(3) 議事

報告1 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成29年度）について

報告2 広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成29年度）について

(4) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料

- ・（報告1）第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成29年度）について
- ・（報告2）広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成29年度）について

8 議事要旨

発言者	発言要旨
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は、報告が2件、「第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成29年度）について」及び「広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成29年度）について」である。 報告1の「第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成29年度）について」、事務局から説明をお願いします。
環境政策課長	<p>【報告1 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成29年度）について説明】</p>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 施策の方針ごとの進捗状況と基本目標の四つ別のまとめを説明していただいた。ただ今の説明について、何か御質問や御意見はあるか。
栗屋委員	<ul style="list-style-type: none"> 第2節の3の公共交通機関のところであるが、私はいつも広島の公共交通インフラは乏しいと思っているので、利用者が増加したことは素晴らしいことであると思う。 人数で達成したとかしないとかで苦勞されているところがあるが、例えばボランティアイベントをして集まった人数であれば分かるが、林業従事者数を絶対数で計ろうとすると、無理があるのではないかなと思った。御存じのように人口はそう増えないので、割合で出した方がいいのかなと感想としては思った。 質問であるが、基本目標である「健全で快適な生活環境の保全～循環型社会の形成～」の循環型社会というのはどこで計ればいいのかということをお教えいただきたい。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 実数で評価することに無理がないかという御意見であった。子供の数が減っている中で、自然との触れ合い施設の利用者数も実数で計ることは難しいということもあるが、これについて事務局はどうか。また、循環型社会というのはどういうことで計っているのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 人数ではなくて割合でというところであるが、それぞれ担当部局があるので、そういった数字の出し方ができるのかというところは確認してみたいと思う。 循環型社会というところであるが、我々がごみの処理といったようなものを行っている中で、循環型という意味では、リサイクルの推進であると思うが、そういう意味で言うと、指標の方に、例えばリサイクル率の向上とか、そういった指標が入ってはいない。今後の検討課題にしたいと思う。
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> こちらの達成状況は、市民に公開されるものとして考えてよいか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 公開する。

佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうすれば、個々に関しては非常によく分かったが、全体としてこれの達成状況はどうなのか。例年と同じぐらいは達成できたと評価できるのか、もう少し全体としてどうするべきか、つまり、どういうところが改善されて、力を入れるべき課題はここなんだということが、個別ではなく全体として見た方が市民には分かりやすいのかなという気はした。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の点については、昨年度も御意見を頂き、資料の1枚目のまとめのところで、基本目標の四つに従って文章ではまとめているが、それをもう少し具体的に昨年度と比べてどうかということをお伝えの方がいいという御意見か。
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうである。個別を見るということよりも、全体として、計画としてどうであったのか。わざとそういう言及を避けているということであれば、それはそれで結構であるが、市民としてはそういう分かりやすい方がいいのかなと気はした。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そこは、我々もいろいろ検討はしたが、この環境基本計画自体が非常に広範な分野にまたがっており、簡単にまとめることが難しい。ここに力を入れてくださいとか、特にそこだけというようなものもなかなか絞りづらいということがあって、現状、環境区分ごとのまとめのような書き方になっている。何か効果的な言い方があれば、御提案いただければ大変有り難い。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市は、もうやめたが、以前、ほかの分野も含めて行政評価の一環として、目標が達成できていればお天気マークで晴れとか曇りとか雨とか、とても分かりやすい指標、見させ方があった。環境分野だけであるが、そのようなことができたなら市民は見やすい。 ・ 質問であるが、資料の中で、指標“等”の“等”が付いている表現が多い。実際は指標ばかりであるが、この“等”とわざわざ付けているのは何か指標以外にもほかのものも将来はという含みがあるのか。 ・ それから、項目によって、評価なしとあって、その理由のいくつかとして、調査が5年ごとに1回であるというような見方があるが、あまりその辺は硬直的に考えずに、この指標はやはり2年に1回あるいは毎年必要であるということが分かれば、その辺をもう少し調整しながら、調査をやっているところと連携を図っていくというようなやり方があってもいい。 ・ それから、最後のページの温暖化の指標であるが、項目番号44番の温室効果ガス排出量について、基準年度が平成24年度になっており、次に御説明いただく資料（報告2の資料）は平成25年度になっている。この食い違いはどうか。 ・ それから、各指標が良かった悪かったという評価は、基準年度と比べて、沿った方向に行っていれば良かった、行っていれば悪かったという〇×であるが、例えば温暖化の場合は、基準年度のほかに短期・中期とかの目標年度というものがある。平成32年度にいわゆる短期目標が出てくるが、その場合、何と比べて〇×にするのか。

環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい評価結果、お天気マークについては、どういったことができるかということを検討したいと思う。 ・ それから、指標“等”の“等”であるが、これは目指すべき方向を含めた言い方、指標と目指すべき方向という意味合いである。 ・ それから、評価なしのものを、例えば5年に1回ではなく2年に1回の調査とかといったようなことにしてはどうかということであるが、法定の調査のようなものもあるので、なかなか簡単にはできないかもしれないが、その辺は確認したいと思う。 ・ 一方で、全体に言えることではあるが、この環境基本計画自体は中長期の計画であると考えているので、指標によっては、毎年どうかということではなく、ある程度中長期的に見ていくということも必要かと思うので、そういった方向で評価ができればと思っている。5年間の計画に対して5年に1回しか数値が出てこないというのはどうかというのは確かにあるが、その辺は、今後、計画を積み重ねていく中で中長期的に見ていければと思っている。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準年度の違いということであるが、環境基本計画の平成24年度は、この計画を作った時の最新のデータがベースになっている。この後御報告させていただくが、地球温暖化対策実行計画における基準年度は平成25年度になっており、これは国の計画を踏まえたものである。国の地球温暖化対策計画は平成28年5月に策定されており、中期目標の基準年度は平成25年度になっている。細かく申し上げると、国の短期目標の基準年度は平成17年度であるが、広島市の場合は短期についても中期と同じように平成25年度に設定している。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先程佐々木委員が言われたような、良いか悪いかはっきりしてほしいということであるが、良いと言うと市民からここが悪いのではないかという意見が出るし、悪いと言うとここが良いのではないかというような意見も出るので、そのバランスが難しい。昨年度の意見を受けて、基本目標ごとに書かれたまとめで納得していただければと思う。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年目になって、前年とどう違うかというところが比較できて大変良いと思うが、数値が入っているところと達成したしないという〇×だけのところがあり、例えば4ページの大気のところを見ると、上の5つが〇で、下が×ということで、この情報だけである。もし可能であれば、それぞれの数値がどうであったのかということがあるといい。特に来年から3年目になるので、点が3つあると線が引ける。達成と言っても、ぎりぎり達成なのか、かなり余裕を持って達成してなおかつ傾向が下がっているのかが分かるので、できるだけ数値を入れていただきたい。最後のページのオゾン層のところの数値を見ると、達成しなかったと言っても、前年度ぎりぎりであったとか、そういったことがよく分かる。 ・ 光化学オキシダントに関しても、0.06ppmという環境基準値は、ほ

	<p>とんど達成不可能な値であり、いつまで経っても×になる。参考のところの最後に新しい指標での評価では横ばいであったと書いてあるが、その数値が記載できれば、状況を把握できる。また、環境基準値ではないが、光化学スモッグ注意報などがどう変化したかということも、地域的な対策の効果を表す良い指標になる。おそらく今のやり方で評価すると、未来永劫×になってしまって、市民から見れば全く対策してないのではないかという印象が強くなる。環境基準が×であっても、新しく設定した考え方、パーセンタイル値のところではどれぐらいであったかとか、注意報の発令がどうであったのかがあれば、トレンドが分かるので、その辺を追加していただければ、より理解が深まるかなという気がした。</p>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は2回目であるが、来年度になると傾向が出るので、来年度の報告の時にはグラフとかが付いてくるのではないかと思います。
環境保全課長	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の報告の際には、そういう形での報告をさせていただきたいと思う。
寒川委員	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化というのは、我々が努力しているが、実際に進行中である。その中であって、広島市、広島県、隣の岡山県に水害があった。多くの方が亡くなったが、この現象は来年もあるかもしれないし、また、この10年間で何回かまたあるということを前提にして考えるべきではないかと思う。 環境基本計画の第3章に危機管理等の視点とあるが、今、私は高須台に住んでおり、高須台の近辺の土砂災害とか危険な地域のマップを頂いた。そして、避難場所は高須小学校です、ということも頂いた。つまり、いろいろな地区が危ない所は危ないと正直にデータを公表されている。公表されると、土地を売る時は高く売れないが、命のためにそういったものを出されたということは、私は大変素晴らしいことであると思う。 避難場所は高須小学校になっているが、そこに避難する時に、そこまで上がっていく途中の道路が非常に危ないという状況もある。私は、市で避難場所だけを決めてということは第一歩であり、それをバージョンアップして、どういう時には高須小学校に逃げてはいけません、そこから下の方は違う所へ逃げてください、といったようなことも必要ではないかと思う。 東北の大震災の時も、裏山へ逃げていたら助かっていたのに、決められた避難場所へ行って、亡くなったという例もある。 環境局がされるべきものなのかよく分からないが、市民からすると、避難場所はここだと指定されて、あそこへ逃げればよいと簡単に思うわけであって、その辺りを地域で本当にそうなのだろうかということを検討会をして、細かい指示が出せるように検討していただければと思う。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> 審議会で過去議論して、現在のこの指標の評価でやりましょうということまで審議会自体が集約したわけであるから非常に言いにくいですが、やはり何か基本的に次に向けて改善しないといけないと思う。 何かというと、これは国の環境基本計画もそうであるが、過去、日本の環

境基本計画、環境問題というと、自然環境から公害問題みたいに極めて多様な要素から成っていて、その個別の要素についてそれぞれ指標があり、どんどん細分化されている。細分化されて、それぞれについて評価するわけであるが、そのような評価で、例えば日本全体が持続可能な社会に向かっているのかとか、広島が持続可能な強じんな都市に向かっているのかという評価とどう関係があるかということはずっと課題であった。

- この間、国の環境基本計画が策定されたが、その前に3年間ぐらい私は環境省の研究を受けて新しい指標を何とか開発できないかという非常に難しい研究をして、非常に苦しんだ記憶がある。その時もなかなか結論は出なかったが、次この環境基本計画を改定されるわけである。
- 先程、循環型社会の形成についてどうなんですかと言ったらお答えにならなかった。まさにそういう問題で、この下位の一つ一つの要素については、○である、×である、あるいはデータがないと言われているが、その上位にあることについて結果的にどうであったのかということについて端的にお答えになれないというのは、やはり次のすごく大きな課題であると思う。
- この計画ができたのが2016年。審議会で議論したのが3年ぐらい前であるから、ちょうどその時にSDGsという御存じのとおり国連で新しい方向が出て、持続可能な世界・地球社会をつくるためにはどうしたらいいかという目標が出た。そういう今や環境と社会と経済とそれから日本では特に安全性であるとかそういった問題をどう絡めていくかというような視点がだんだん大きくなった。
- ヨーロッパの方のこういう戦略に対するものは、どちらかというとも持続可能性というものに関して一步一步進んでいるかという指標をどうやって開発するかというところに重点が移ってきて、何とか基準の合格が何%であるからいいとか、そういうものは微々たるものである。それは最低限の話で、日本経済全体がどうなっているかというのに、何々比はどうであるとか、そういったものばかりをやるのではなく、全体として健全となっているかどうかといったような見方をしないといけないとなっている。
- 今、インターネットでほかの都市がどうなっているのかについて見たが、全国の都市で環境基本計画の指標を勉強したり、試行しているということが見えた。市の中で、多分、次に向けて戦略検討も始めていると思うが、諮問がなされてからこの審議会で議論しても遅い。スケジュールに追われて、意見を言っても、いや今の段階ではもう間に合いませんと言って結局また同じことが始まってしまう。あと3年か4年後であれば、今の段階でそういう研究をして、予算を少しでもいいから付けて、若い人たちがいっぱいいるので、若い人たちの中でそういうことをどのようにしたらいいのかという研究をしておかないと、同じことにつながる。
- 先程言われたように連続して大災害に見舞われて、強じん性や危機管理の

	<p>ことが書かれている環境基本計画の第3章辺りについて、どうやってきちんと広島をこうという観点から前進させたのかということも聞いても、指標にありませんで終わるとするのは、何のための環境基本計画であったのかということになる。</p>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 柳下委員の言われているSDGsについても、事務局は認識していると思う。次回の策定・改定に向けて、今から準備を始めながら、世界の動きも早いわけであるが、トータルで持続可能な社会になるのか、本当に安全な地域、市民を守れるのかというような新たな指標をどのようにつくるかということが次の策定の時の課題になるという柳下委員のコメントであった。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 続いて、報告2の「広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成29年度）について」、事務局から説明をお願いする。
温暖化対策課長	<p>【報告2 広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成29年度）について説明】</p>
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 緩和策・適応策と広島市が自ら率先して行っている取組について御説明していただいた。225項目という指標を掲げている中、全てを網羅することはなかなか難しいが、その中で端的に御説明していただいたと思う。 基準年度と比べておおむね温室効果ガス排出量などが減少しており、目標を達成できている項目もある。家庭部門についての温室効果ガス排出量の減少には、御説明していただいた225の項目の市民に向けてのいろいろな取組がいくつかでも効果を上げていると考えていいのかどうかというところが気になるところである。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 会長がおっしゃるとおりであると思う。家庭だけではなく事業所においても大きな電力使用、エネルギー使用があるので、実際に啓発したらこれぐらい効果が上がったという因果関係を定量的に示すことがなかなか難しいと思う。広島市だけではなく全国でも啓発活動を続けており、国においても二酸化炭素の削減は広島市と同じような動きがあるので、啓発による効果も一定程度はあると考えている。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 行政施策の効果を明らかにすることは、いろいろな分野の行政施策があり、私も関わっているが、なかなか難しい。これをやったらこう上がったということが見えない分、何をやったらいいか分からないということになる。 この審議会でもいろいろな指標を検討した中で、やはり市民、業者、行政が一緒になって取り組む姿勢が重要ではないかということで、啓発のキャンペーンなどの取組を皆で一緒にやろうということが議論になったと思うが、そのようなことを平成29年度からまた始められているという御報告もあった。 報告2の地球温暖化対策実行計画、平成29年3月に策定したばかりでまだ日が浅いが、今回の報告について何かあれば、まだ御発言のない委員は積極的にコメントをお願いしたい。

甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民は、ごみの問題が一番気になっている。ごみを私たちは毎日出させていただいて、市で処理していただいているが、できるだけごみをごみではない処理の仕方、例えば資源化、再利用化、そこら辺の数字を私たちは見るので、そこら辺がどうなっているのかということが広島市として住みやすいとか、無駄なことがなくなっているとかの指標になると思う。 ・ また、いろいろな市の施設を使わせていただいている、とても気になるのが、やたら電気がついていることである。公民館にしてもとても明るくなっている。市行政として隔々まで市の在り方を徹底していただきたい。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この御報告も公開するという事なので、市民に分かるような形での公表が求められていると思う。 ・ ごみの処理について、リサイクルされているのか、どのような処理をされているのかというような指標があるのかということと、数字をどのような形で公表しているかということと、電気についての御意見もあったので、事務局からお願いしたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの再資源化であるが、再資源化率の数字は出しており、公表はしていると思う。国にも報告しており、各都市の再資源化率が比較できるような形で公表されている。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と市政とかで簡単な数字でも公表できると、市民も分別されているごみがどのように再利用されているかということが分かるので、検討いただきたいと思う。電気についてはどうか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気の消灯、要するに省エネは、ずっと私どもが言い続けていることで、これからもやはり言い続けていかなければならないことであると思う。市民の方々にそのように映っているということは、そこはしっかりと受け止めて、更に更に徹底を図っていくということになると思う。 ・ その方法であるが、市では、環境マネジメントシステムというものがあり、具体的には全庁の共通項目や各課それぞれで項目を定めていて、それに沿って、省エネ活動に取り組んでいるので、これに内部監査の仕組みも含めしっかりと運用していきたいと思う。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の業務を行っているところは、お昼休みは消灯し、真っ暗になっており、そういうところは見ている。市民が使う場の公民館や体育館でも、安全のためや防犯のために電気を供給しているのかもしれないが、それについても今後検討をお願いしたいと思う。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先程、どの施策がどのくらい二酸化炭素削減に貢献したかということは定量的には非常に難しいという話があったが、今回一步踏み込んでK P I という指標を出している。K P I は削減効果ではないが、例えば計画の56ページ以降に、それぞれのK P I に絡めてどのくらい削減量が見込まれるかという辺りは既に出しているので、ここを手掛かりにして、この施策は二酸化炭素削減にこのくらい寄与したというところを見せてくれれば、一般市民の人

	<p>はどれが大切でどれが効果がないかが少し分かると思う。</p>
牧里委員	<ul style="list-style-type: none"> この事業は、市民と事業者と行政が一体となって進めていくということで、今、促進されているが、内容を分かりやすく知らせるということもこれまでもいろいろと言われてきている。 その中であって、例えば広島駅南口の交流広場や八丁堀交差点、さらには本通りの入口の大きいスクリーンでPRをされているが、どの程度の効果があるかということなどをどのように分析されているか。 また、どういう内容が良いか悪いかということも含めて、行政が市民、事業者に知らせるのに、どういう工夫をしているのか、全体像を示しながら具体的な事例とか、そこら辺りの工夫をもっと出していただきたいと思う。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> まず、牧里委員にも御参加いただいているひろしま低炭素まちづくり市民会議を中心に行っている、先程御説明したキャンペーンの中で、委員がおっしゃったような取組をしている。 この評価であるが、実際にどの程度の人がどれだけ見たのかというような数字はないが、その考え方としては、温暖化対策はいかに無関心層に訴えかけるかということが大事であると思う。無関心層に向けて、いかにそれが社会的に大事なことであるのかということをお訴えかけて、心に留めてもらうかというところが大事であると思うので、そうした人が集客できる場所に大きくPRしていき、その積み重ねによって効果が出てくるのではないかと考え、今後も続けていけたらと思っている。 その工夫の部分は、いかに見てもらう工夫をするかということになると思うが、例えば今いろいろな社会情勢が変わってきており、ものを見る媒体というものも変わっていくと思う。電車の広告やバスの広告もあると思うが、今であればスマートフォンであったり、そういういろいろな媒体を活用することを考えながら、いかに目に付くように工夫していけたらいいと考えている。
寺岡委員	<ul style="list-style-type: none"> 消費者協会では、スーパーマーケット協会と、行政、事業者、消費者の三者懇談会とかで、環境問題、特にごみ問題などに取り組んでいる。 先程、どのように広報したらよいかということもあったと思うが、私ども消費者協会は、意識調査をやっており、今年で48回目になる。 その中で、食品ロス削減協力店を知っていますかという設問に対して、9割近くの人が知らないと答えている。また、飲食店やホテル、旅館などにおける、料理の食べきり、持ち帰りなどを推進する、食べ残しゼロ推進協力店を知っていますかという設問に対して、これもやはり9割以上の方が知らないということになっており、アンケートをするとともに啓発にもなっているのかなというふうな考えでいる。スーパーの店頭で、「スマイル！広島」のマークを見たという方がほとんどおられず、市民にどのように徹底したらいいかという課題がいつも残るとというのが現状である。

田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> 様々な取組が必要であるが、先程の行政効果を見るのにも、そのような市民に対する調査なども効果指標として有効になるかもしれない。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> 今年の集中豪雨の災害は非常にショッキングであったが、地球温暖化対策実行計画を作る時には4年前のことが念頭にあって、適応策という点に対して気になっていた。 広島でこれだけのことが集中的に2回も起こり、極端なことを言うと、計画の見直しというところがあり、いろいろな内外の動向の変化であるとか、そういったことに応じて見直しを行うとあるが、その見直しに匹敵するようなことであったと思う。 また、気候変動適応法という法律ができたが、要するに温暖化による影響は避けて通れない。これに対して、どうやって強じんなまちをつくるかというような計画を自治体ができるという新しい法律であるが、ここに対応するような考えがないのかどうか、要するに適応についての話である。 今回、適応について、2017年度の実績が全て実施したとあるが、2018年度に大災害があった。ただ実施したというだけで、何となく進捗評価をしている。もう一步深めて、何らかの形でこの計画自体の見直しであるとか強化であるとか、そういったことにつながらないのかどうかということは若干気になった。 それから、先程から、課長さんが無関心層というお話を盛んに言われるが、これは1990年ぐらいからずっとそういうふうと言われて30年経とうとしている。多分、無関心層がやってくれないと困ると言う、私は100年やっても変わらないと思う。 今、大事なことは、国は既に低炭素という言葉を使わないで、脱炭素と、エネルギー基本計画も脱炭素と、そういう次のところを既に目指しており、こうなると、みんながやらなきゃだめだねというレベルではない。 100人がいるグループで100歩進む時に、10人で10歩路線というか、いろいろなユニットの中にリーダー格の人を配置して、あるいはネットワークをつくって、その人たちが頑張る。それによって、無関心層の人たちが無関心であっても、まち全体としては進んでいくような仕掛けをどうやってつくるかというような路線に変えていかない限りは、永久に結局市民がだめだからねと言い訳にしかならないと私は思っているので、その辺のやり方、戦略に、日本全体の問題であるが、切り替えていかないといけない。 今、国が来年の大阪で開催のG20に向けて、2050年の脱炭素の長期戦略を官邸で策定中であり、間もなく出来る。そうすると、いろいろな面で、特に産業界に激震が起これると思う。国は、新しい脱炭素の日本社会をつくる時に何を変えていくか、しかしそこにおいても経済、社会が発展するような新しい戦略をつくっていくという観点でやっているが、広島の場合も当然自動車産業があり、多分激震の影響を受けるのではないかと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> • そういった観点から国が新しい戦略を立てようとしている時に、特に自動車産業や石油産業のような脱炭素によって明らかに影響が大きくなるようなところこそ、地域での雇用の問題や産業構造が大幅に変わってしまった時のいろいろな影響であるとか、そういったことを先に先に検討していく体制はとるべきではないか。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> • 指標をつくって、その次にどうやって安全で持続可能な環境をつくっていくかということに対しての大事なコメントであり、次の計画、方策を考える上での手立てとなるようなコメントを頂いたと思う。 • 今回、地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況について、御説明していただいた。市民によく見える形でということと、それから市民にどうしたらいいかということと、環境基本計画もそうであるが、指標の評価を基に、どのように全体として良くなる環境をつくっていくかということについての考察を次に立てていかなければならないということは明確になったと思う。
西嶋副会長	<ul style="list-style-type: none"> • 最後の温暖化対策のところで、私も先程の意見と同意見を持っており、適応策が少し薄すぎるのではないかと思う。もちろん何とか緩和しないといけないことは大事であるが、ここに至ると、やはり適応策を考えていかないといけない。第1次産業は、自然環境に影響を受けるので、それを今から対策を打っていかないといけない。
田中純子会長	<ul style="list-style-type: none"> • 本日の会議を終了する。長時間にわたり、貴重な意見を頂き、感謝する。